



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 29 年 4 月 7 日 第 6 巻 (第 12 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 巻頭言 〈 2016 年度を終えて 〉
2. NOTE でのグループワークを振り返って
3. 石巻へ行くこと
4. 活動報告書
5. 「男のあそぼう会」最終章
6. 災害支援チームからのお知らせ
7. 災害支援ニュース発行のお知らせ
8. あとがき

**石巻現地職員を募集しています！！**

詳細は協会ホームページ「石巻・現地職員募集中」からご覧ください。

**石巻市応急仮設住宅現況報告**

(石巻市 平成 29 年 4 月 1 日現在 応急仮設住宅一覧より抜粋)

**応急仮設住宅入居状況** (応急仮設住宅集約化進行中)

入居戸数 2,138 戸

入居人数 4,453 人

## 1. 巻頭言

〜〜 2016 年度を終えて 〜

災害支援チーム

石巻現地責任者 福井 康江

この災害支援ニュースの原稿と並行して、2016 年度事業業務完了届の書類の作成も進めています。石巻の災害支援チームに赴き、早くも 1 年を終えようとしています。

「自立再建」との言葉に戸惑いながら、この地での活動の一步を踏み出したのが、とても昔のこのように感じています。

振り返れば、本当にたくさんの人と出会いがあり、そして別れもありました。

前回は伝えさせていただきましたが、約 3 年半続けて参りました「男のあそぼう会」をこの 3 月で修了しました。参加者の皆さんから、「さびしい」との言葉をいただき、私は最高の褒め言葉をいただいたと思っています。参加していただいた皆様、立ち上げていただいた皆様、支えていただいた皆様、心より感謝申し上げます。

私が SW になって数ヵ月した時、「SW って少し不安を抱えながらクライアントの後姿を見送るものなんだ。」と感じたことがありました。この 3 月、またこの思いをかみしめています。



## 2. NOTE でのグループワークを振り返って

災害支援チーム

アドバイザー 西田 知佳子

石巻現地責任者 福井 康江

2016年5月から、ユースサポートカレッジ 石巻NOTE（以下NOTE）でグループワークを日本医療社会福祉協会が中心となってさせてもらうことになった。

当協会が保健センターで行ってきた「引きこもりの子を持つ親の会」は2016年度で終わり、その後グループワークを石巻で続けたいと思い、複数の機関に打診していたら、NOTEが就労支援のプログラムの中に組みこんでもいいといってくれ実現した。

最初の年、今年度は当協会が中心になって行うが、次第にNOTEに移行していくことを担当のOさんが理解してくれ、5月の第4水曜日に第一回目が実施された。コンダクターは西田、コ・コンダクターが福井とOさん、その初回は参加メンバーが6名だったが、趣味のアニメの話に一部のメンバーが盛り上がりぎやかなグループワークとなった。

6月は8名と参加メンバーは増えた。ところがその回も主に話の中心となるのは、まだ就労支援につながっていない学生とかモラトリアム世代のメンバーで、彼らは今一番に関心のあるアニメの話を我先に話した。その様子に危機感を持ったOさんが振り返りの時に、「このグループは就労を目的とする人の参加に限ったほうがよい」と提案した。確かに若者の就労を支援するNOTEで行っているグループワークなのだからOさんの提案は正しい。なぜNOTEに就労を考えていない人が来ているのか我々は不思議に思ったくらいだった。Oさんが、就労はまだ先のことと考えているメンバーと話をして、参加を遠慮してもらうことになった。Oさん

の説明に納得した「就労をまだ考えていないメンバー」が参加しない、新たに立て直したグループワークが9月から始まった。

残念なことにグループワークの方向性に心を砕いたOさんは転勤になり、その回から非常勤の方が担当となった。そしてその回からメンバーは、自分の就労準備の状況や、休職となった事情を語ったり、復職の不安を語ったりした。何名かは就労し、何名かは試用期間であり、もう一度面接を受けるという人もいた。皆、NOTEのスタッフの力を借りながら就労先をさがしたり試用期間に挑戦したりしながら、就職を決めたりするのだが、我々日本医療社会福祉協会のSWは、メンバーの就労状況を知らずにグループワークに参加し、メンバーから直接その時の状況を聴き、彼らの気持ちを聴く。状況を知らないから遠慮なく話題にできることやNOTEのスタッフには話辛いことなどが、持ち出されることもあり、その機関とは関係のない人がこのような形でグループワークに関わることのメリットを感じることができ、勉強になった。

2017年度は福井が中心となってNOTEのスタッフと同じような形式でグループワークを継続する。NOTEは中間的就労の場としてイシノマキ・ファーム（農場）も行っているので、種芋や人参、茄子、苺など野菜（植物）が事務所に沢山ある。これからもNOTEのスタッフやメンバーの手によって、農作物と同じようにグループワークが育ってくれることを期待している。



### 3. 石巻に行くこと

#### 災害支援チーム

賛育会病院 富永 千晶

年に1度、石巻に行くことが続いています。当協会現地職員としての任期を終え、当協会での活動としてではなく個人としていく「石巻」について少し振り返ってみたいと思います。

被災地で支援者としての役割で復興の一助になれば…と思って活動してきたのが、最初の気持ちです。しかし、徐々に支援者として『何かをすることが、支援の一助なのか?』という疑問が気持ちの中に湧いてきました。ただ、石巻の変化を遠くから伴走することが当事者ではない外部の者としてできることなのかしら?と思うようになりまた。そして、今は、友人たちと友人の家族とともに1年に1度、友人宅でそれぞれの1年を振り返り、それぞれの仕事のことや他愛もない事柄を語り合うこと、それが「石巻」に帰る理由になっていました。

友人は、地域福祉の専門職として多くのことを気づかせてくれます。「新しいまちづくり」「包括ケアシステム」「医療と福祉の連携」などなど。石巻では新天地の住民になる方もいれば、迎え入れる住民の方もいます。支援者としての友人の関わりの視点、医療を通しての福祉の視点様々な意見と、被災地だからできること・難しいこと。

様々な地域の関わりを、経験を経て考え方が変わっていくこと…私も今の職場で「地域福祉」に従事し始めていますが、手探りのなかにいます。友人の子どもたちの成長を見ながら、学校や地域の変化を一緒に考えたり（「もし、できることはどんなことだろうね」と話したり…）と、もちろんフィールドワークという名の食事を支度するミッションとして（笑）スーパーに買い物に行くことも、「石巻の今」を感じる瞬間です。きっと、支援をすることだけではなく「帰ってらっしゃい」と言われるような場所が、“ともに、歩みます”ということが私の支援のあり方なのかもしれません。

今回、友人の家族とともに職場の後輩も一緒に石巻や女川を散策しました。後輩から、感想をメールでもらいました。

『今回初めて石巻に行って、初めて見る景色に言葉が出なくなるのがほとんどでした。富

永さんのお話、△さん（友人）の言葉、○ちゃん（友人のこども）の「避難所では手遊びしかできなかつたんだよ」という言葉もすべてわたしには大きな経験になりました。行く前は6年も経ってしまったけど・・・と聞いていましたが、今だからこそ見られた景色で、聞いた言葉だったと思います。』

被災地であり・被災地であった石巻は私にとって、その時々を紹介して繋げ続けることで、自分の大事な場所に、自分の心を見つめ直す場所になりました。



#### 4. 活動報告書

総合南東北病院

宮城県 菊地 知憲

活動期間：2017年3月15日

今回は男のあそぼう会最終の会。活動のスライドショーを見て、各自でアルバムを作り、食事をした。何というか、会全体が寂しげで悲しいものであった。別れ、終わりは寂しい。何故か自分の卒業式等と比べるととても寂しく感じた。参加者の多くも同じ感情であったと思う。それは男のあそぼう会の参加者が今後の未来、希望が描けない状況であったからだと思う。年老いた男たちが、このあそぼう会に仲間意識、楽しみ、居心地の良さを感じておられたのが、寂しさをより強くされたのだと思う。そのような気持ちになっていただける会を実施されてきたことが非常に価値あることであると思う。被災者だけでなく、一人暮らしということは寂しさと隣り合わせであり、自分の居場所、人との関わりが幾つもあることが人間にとってかけがえのないものであることを今回参加させていただき、強く認識した。人との関わり大切さ、いつ継続できなくなるかわからないものということは東日本大震災の時に強く感じていたはずなのに、もう忘れかけていた。震災、人間関係の大切さを忘れてはいけないことを男のあそぼう会は教えてくれた。忘れないようにしたい。

今後も石巻の支援を日本医療社会福祉協会で継続していきます。今後、どのような支援が必要になるかはわかりませんが、自分も含めて引き続き、協力していきましょう



## 仙台循環器病センター

宮城県 長谷川 敦

活動期間：2017年3月15日

午前 定例 石巻 男のあそぼう会 新立野第一集会所にて  
活動振り返り

今回は、交代でおじゃましています、宮城県協会メンバーが4人そろい活動を振り返りました。参加者6名、スタッフ8名、計14名それぞれの想いをこの活動を通して感じたことを語り合い、今後も出会えた喜びを形を変えて年に数回再会したいとの意見になりました。参加者の中からは、活動に参加して良かった、月1回でも出会えて良かった等聞かれ、現地石巻の歴代派遣メンバーに対する感謝の言葉が聞かれています。

私もいつから参加したか、記憶があいまいになるような年月が過ぎ去ろうとしています。たしか、2014年夏頃よりの参加であったような記憶です。当時、当協会理事職をしており、現地、宮城県に、全国より活動ボランティアで参加されるメンバーのお役に立てればとの想いで午前の活動終了後、支援員の方を日和山等へ案内して当時の被災状況をふりかえる支援。これも私の大切な役目でした。参加者との思い出としては、近隣温泉施設にて入浴活動、活動後に参加者のアパートへ同行して、生活器具の確認、購入同行の支援等をさせていただきました。病院での勤務ではあまり感じることのできない、在宅での一人ぐらしの実態、現行の制度では支援の受け皿に入りにくい自立に近い、高齢の視力低下の保護世帯宅等、私にとっても、この活動がいつしか、日々のワーカーとしてのふりかえる貴重な時間となっていく、生活目線での支援ができ、ありがたいものでした。

これから、この活動以外でも終結に向けて、いろいろなことが終わりを告げていくことと感じます。残念ではございますが、「今後も前を見て生きる」と活動から帰るときそんなことをいつも口ずさみ片道1時間半の道のりを車で通いました。現地石巻の歴代派遣支援員の方、RCIの皆様、協会本部、社会活動部の皆様、大変お世話になりありがとうございました。



## 5. 「男のあそぼう会」最終章

∞ ∞ ∞

### 【これからも頑張ろう会】と位置付け 楽しかったあの時を振り返った

∞ ∞ ∞

#### 災害支援チーム

石巻担当 菊田 駿

最後の「男のあそぼう会」は、スライドショーでこれまでの活動をプロジェクターに映し、鑑賞した。スライドショーを見ながら、「この時はこうだった」「魚釣りは楽しかった」「山に登って景色がよかった」等の声が聞こえた。鑑賞中は写真に映っている自分の顔に照れながらも思い出話に浸っている姿はどこか、少年のようにも感じた。

スライドショーを鑑賞後、これまでの活動の中で撮影された写真を用意し参加メンバー個々に好みの写真を選んでもらい、一人ひとり違う工夫を凝らしたオリジナルアルバムを作成した。アルバムの最後には、今日のために用意した「参加賞」と書かれた賞状を綴じこんでもらった。

昼食は、『特製幕の内弁当』と書かれた弁当を輪になり談笑しながら完食した。『特製』という文字に歓声があがり、盛り上がった。

昼食後、これまでの活動を振り返って、どのように感じているか参加メンバーに投げかけたところ、以下のような意見があがった。

- ・「あそぼう会の活動がなくなるのは残念だ」
- ・「復興住宅は仮設と違って、挨拶しても返してこない人が多く、復興住宅の集会所を使って集まることも難しい。どこかで話をする場所がほしい」

・「寂しい」

・「相談相手がいなくなる」

男のあそぼう会がなくなることへの寂しさが強く感じられた。

しかし、

- ・「たくさんの思い出が出来た。楽しかった」
- ・「月1回の出かける機会だった」
- ・「月1回の楽しみであった」

という言葉もあり、寂しさと同時に感謝の気持ちが伝わってきた。この感謝の言葉を聞いたのは、これまで活動に従事してきた前任者を含めた現地職員や多くの協力員のみなさんの力があってこそだと思った。



あそぼう会が一つのコミュニティとして位置付けられていたのだと改めて強く感じる事が出来た。

参加メンバーの皆さん、協力員のみなさんありがとうございました。

## 6. 災害支援チームからのお知らせ

### 【1. 大切なお知らせ】

—— 協力員募集は既に終了いたしました。 ——  
ご協力ありがとうございました。

### 【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

平成 29 年度第一回会議日程 検討中

### 【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、  
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の  
販売を行っています！

発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯



支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタン I :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

ボタン II :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

ボタン III :URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=54](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54)

#### 【4. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

#### 【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



## 7. 災害支援ニュース発行のお知らせ

平成 29 年度第一回発行予定 検討中

## 8. あとがき

### 災害支援チーム事務局から

編集担当 金子

2016 年度も終わります。

今年度は現地スタッフ 2 名が支援活動を全ういたしました。2013 年 4 月から 2016 年 12 月までの畑中さん、2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの岡村さんです。石巻での長い支援活動を終えて、畑中さんは既に新たな道を歩み始めたとのことでした。岡村さんもこれから新しい活動の場に出ていかれることでしょう。

また、2013 年に始まったグループワーク「男のあそぼう会」も最終の会を迎え、継続して参加してくださったメンバーも年齢を重ねると同時に修了の時を迎えることとなりました。最後の「男のあそぼう会」ではそれぞれメンバーの思いを伝えていただき、現地スタッフを勇気づけていただきました。2011 年 3 月 11 日からの長い時間を経てさらに、石巻現地での支援活動は継続されていきます。岡村さんの今後の活躍と、「男のあそぼう会」参加メンバーのみなさんの日々が楽しくなるよう祈念いたします。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 29 年 4 月 7 日第 6 巻 (第 12 号)  
作成 日本医療社会福祉協会  
災害支援チーム事務局